

狂気をもって狂気を制するか、トランプ大統領

Greatchain

2018/04/12

「我々はシリアから撤退する、全く無駄な戦争だった」と宣言して、2週間もたたないうちに、トランプ大統領は、ロシアに向けて警告した——「覚悟しておけ、ミサイルがお前の同盟国シリアに飛んでくるぞ、すばらしい新式の、賢いやつだ！（nice and new and smart!）」——これは、子供が戦争ごっこで言う言葉である。トランプは本当に狂ったか、狂気を装っているか、あるいは両方かもしれない。では、ジョン・ボルトンのような戦争タカ派を重職につけて世界を驚かせて、言った言葉「私は更迭が趣味でね、今度は妻かな、アッハッハ」はどうか？

まず、エリート支配者たちを指して「我々は狂人どもに支配されている」と言った（そして暗殺された）ジョン・レノンには、正しかったと言わねばならない。いずれにしても、狂人社会の中で、自分だけ正常な人間を押し通すことはできない。英国のメイ首相が、根拠もなしにロシアが毒ガスを使った、と言ったときも、トランプは、独のメルケルや仏のマクロンに合わせて、ただちにこれを支持した。あのインサイダーQ²の言うことが正しいなら、トランプは下腹に弱点を持つがゆえに、エリートに当選させてもらい、当選後は重用されている。もし彼が、非の打ちどころのない、品行方正の男だったとすら、そんな者は最初から相手にされなかった。「神は曲がった線を用いて、まっすぐに書く」。アメリカ大統領には、適性というものがある。彼の狂人ぶりも、子供じみた言葉も、今のアメリカと世界にとって必要なものだった。暗殺を避ける意味からも必要だった。

トランプが、「能ある鷹は爪を隠す」というような、あるいは狂気を装うハムレットのような、知恵者であるかどうかは、正直なところ、わからない。しかし彼は、大統領としての責任は感じていると思われる。たとえ背後権力の命令によって動いているとしても、大統領は大統領である。狂人の中であって、ひとり正常人を貫くこと、悪人の中であって、ひとり善人を演ずることが、大統領の責任を果たすことにはならなかった。トランプは、自分が何者かに動かされていると感ずる、と語ったことがある（SOTNからの情報）。

手のひらを返すような、この狂気じみた政策転換について、RTは「なぜトランプは、シリアについて方針を変えたのか？（2分間ビデオ）」という論評を出している。それによると、

トランプの矛盾した言動は、もっぱら支持率を気にしていることから起こったことだ。歴代の大統領はすべて、支持率が落ち始めると外国に敵を作って「一致団結せよ」（旗のまわりに集まれ）と呼び掛けて成功している、と論じている。それも確かにあるだろう。是非善悪に関係なく、大統領として人気がなくなるとは、元も子もないからである。しかし、それは十分な説明にはならないだろう。

もう一つ同じ RT の記事に、「“大人子供” トランプによるシリア脅迫は、“歴史上最悪の不安な大統領声明”——Galloway 談」というのがある。冒頭を引用しよう——

元議員のジョージ・ギャロウエーは、米内閣に、ドナルド・トランプ弾劾を呼びかけ、トランプが、シリアに対して「賢い」ミサイルを撃ち込むと約束したことに對し、彼を「大人子供」manchild と呼び、このアメリカ大統領の正気を疑問にしている。

トランプはツイッターを利用して、ロシアに「用心せよ」と警告し、お前の同盟国シリアに、「ミサイルが飛んでくるぞ、すばらしい新式の、“賢い” やつだ」と言った。トランプのコメントが届いたのは、レバノンへのモスクワ使節、アレクサンデル・ザシプキンの約束の後だった：——ロシア軍は、シリアの指導者バシヤール・アサドに対する、アメリカの侵略があった場合には、ミサイルを撃墜し、発射基地を破壊する権利を保有する。……

これはギャロウエーの当然の反応であり、RT の当然の報道であるが、おそらく両者とも、「大統領の正気を疑う」ことに、疑問を感じているだろう。おそらくトランプは、形では、この戦争の先頭に立ちながら、そのすべてが無意味だと思っている。しかし、それを言葉で無意味だとは言えないので、馬鹿げた行動や言葉遣いを通じて、そのメッセージを送っている。トランプが、そこまで緻密に計算しているかどうかはわからないが、国連米大使のニッキ・ヘイリーにしても、メイ英首相にしても、役者のすべてが、真剣であればあるほど、無意味な芝居の役を、自覚してやっているように見える。

今、戦争をしたがっている者たち全員が、見え見えのウソをついてまで、他国を侵略する口実を作り、人を死傷させ町を破壊して、何かよいことが自分に回ってくると、本当に考えるなら、それは精神病患者である。しかしその精神病患者が、そういう者として認識されず、堂々と振舞っているとしたら、それは、このような悪人たちに芝居をやらせて、何かを学び取らせる、何者かの意志が働いているのではないだろうか？ イルミナティの最高の哲学者と思われる Hidden Hand の、悪役を「演ずる」人々という説明が、ここにつながってくる。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170719.pdf> 「神は曲がった線を用いて、まっすぐに書く」も、同じ意味である。ここでも『マクベス』の有名なセリフが、この上なく見事

にその事情を説明する――「それは阿呆の語る物語で、音響や怒号には満ちているが、そこに何の意味もないのだ」。マクベスは、最後にはうまくいくとっていて、思いがけなく敗北したのではない。最初から自分の運命を、心の奥では知っていた。今、シリアを狙っているマクベスたちも、同じ心理が働いているはずである。